

朝来市制施行5周年記念式典

市は、市制施行5周年記念式典を約700人の出席者のもと、6月27日、ジュピターホールで開催しました。

式典は、朝来市少年・少女オーケストラの演奏で始まり、市民憲章の朗読、市の木「けやき」と花「さくら」の報告などの後、市の歌の作詞者稲岡俊一さん（東京都）へ多次市長から感謝状を贈呈しました。また、市内のコーラスグループが朝来市の歌を披露した後、式典参加者と一緒合唱するなど、会場全体が一体感に包まれました。



市の歌を合唱する市内コーラスグループと式典参加者

運動場を緑いっぱい

市教育委員会は、児童・生徒の運動・体力不足を解消し、心身の健やかな発達を促すため、校庭の芝生化事業を進めています。

6月下旬から7月上旬に、糸井小学校、中川小学校、生野小学校でそれぞれ、児童・PTA・地域住民による作業が行われました。サッカー場などで使われている芝の苗を約50坪間隔で植え、自然繁殖させる方式で、およそ3か月後にじゅうたん状になる予定です。

参加した児童は「緑一面の運動場になってほしい」と笑顔で



運動場に芝生を植える作業をする糸井小学校児童

答えていました。

我がまち朝来 再発見

第33回

まじないの道具
「人形(ひとがた)」

身体、手足などを表現して作られたもので、人の形を写したものです。発掘調査で出土するものは木が多く、顔にあたる部分には小さな切り込みを入れて目や鼻、口を表現しているものや何も表現しないもの、またまねに墨書きで人の顔をリアルに表現したものもあります【写真①】。

季節は真夏。暑い日が続きます。このような暑い日は何かと体調を崩しがちですが、現代社会の中では医療が発達していることから、医者にかかつて薬を飲めばたいはい回復することでしょう。しかし古代においてはそうはいきません。ひたすら病氣平癒を祈るのです。その祈りに使用される道具のひとつとして人形(ひとがた)があります。

ところで民俗学においては「ハレ」・「ケ」・「ケガレ(穢れ)」という概念があります。「ハレ」は儀礼や祭などの非日常、それに対して「ケ」は普段の日常的な生活が順調に行かなくなることを「ケガレ(穢れ)」といいます。この「ケガレ(穢れ)」は「ハレ」の祭事を通じて回復する(取り除く)ものと考えられています(定説ではありません)。現在においても紙の人形に息吹を吹きかけ、人間の分身としてケガレを移し、川に流す神事が行われている神社もあります。いわゆる「水



【写真①】 但馬国府跡周辺出土の人形(川岸遺跡)※但馬国府・国分寺館提供